

**国際芸術祭「あいち 2022」ラーニング・プログラム  
愛知と世界を知るためのリサーチ  
「あいち」を「まるごと」壁画にするプロジェクト  
『MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑』の参加者を募集します**

国際芸術祭「あいち 2022」では、幅広い層を対象とした様々なラーニング・プログラムを順次、実施します。

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、愛知にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースにしたプログラムです。

このプログラムでは、アーティスト等がリサーチリーダーとなり、公募による参加者たちとフィールドワークなどの活動を通して、様々な視点から愛知を発見するプロジェクトを実施します。

このたび、アーティストの<sup>まじまたつお</sup>眞島竜男をリサーチリーダーとした『MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑』を始動します。「あいち」を知り、学び、想い、絵にする、「あいち」を「まるごと」壁画にするプロジェクトです。下記のとおり参加者を募集しますのでお知らせします。

## 1 『MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑』について

リサーチリーダー 眞島竜男（アーティスト）

アーティストの眞島竜男は、三英傑（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）に着目し『MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑』と題した壁画を制作するプロジェクトを始動します。リサーチでは、研究者に会いに行ったり、フィールドワークに出かけたり、共に考え共に手を動かし実践していく活動を展開していき、プロジェクトの成果として高さ7メートル、幅21メートルの壁に壁画を制作し、「あいち 2022」会期中に発表します。

## 2 参加者募集について

リサーチリーダー・眞島竜男と共に毎月1回程度のフィールドワークに参加し、「あいち 2022」での発表に向けた制作や期間中のイベントなどにも継続して関わっていただける方を募集します。最初は名古屋市近郊を中心に活動を始めていき、その後は参加者と共に考えリサーチを進めていきます。詳細はキックオフ・ミーティングでお伝えします。

- (1) 定員 10名（要申込）定員を超えた場合は選考を行います。
- (2) 活動日 2021年：11月23日（火・祝）、12月26日（日）  
2022年：1月22日（土）、2月26日（土）、3月26日（土）、  
4月23日（土）、5月21日（土）、6月25日（土）  
※2022年7月以降の予定は、確定次第お伝えします。
- (3) 参加条件など
- ・本プロジェクトの参加の際（個人のリサーチ含む）に発生する交通費、食費、施設入場料等諸経費は各自でご負担ください。
  - ・活動中の様子を写真と動画によって記録します。記録した写真や動画はご本人の同意のもと、国際芸術祭「あいち2022」の広報物や報告書等で使用する場合があります。
  - ・活動にあたっては、参加者を被保険者とした団体傷害保険に、国際芸術祭「あいち」組織委員会において加入します。
- (4) キックオフ・ミーティング
- キックオフ・ミーティングでは、リサーチリーダーである眞島竜男のこれまでの作品紹介と今回のリサーチプロジェクトについての説明を行います。その後、プロジェクトの中で制作する壁画を展示する会場の見学、名古屋市内の壁画を巡るミニツアーも行います。
- 日時：11月23日（火・祝） 午後1時から5時頃まで  
会場：アートラボあいち  
(名古屋市中区丸の内三丁目4-13 愛知県庁大津橋分室2～3階)

### 3 申込方法

国際芸術祭「あいち2022」公式ウェブサイト 「ラーニング」ページ  
(<https://aichitriennale.jp/learning/index.html>) よりお申し込みください  
申込み締切：2021年11月15日（月）正午

※ 参加の可否は、11月17日（水）にメールでご連絡します。

### 4 問合せ先

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局  
(愛知県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室内)  
住所 〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2 愛知芸術文化センター内  
電話 052-971-3111 FAX：052-971-6115  
URL <https://aichitriennale.jp/>

## リサーチリーダー・プロフィール

眞島竜男 Majima Tatsuo

1970年東京都生まれ。滋賀県拠点。写真、ビデオ、テキスト、パフォーマンス、レクチャー、粘土など様々なメディアを使った作品を制作。日本の近・現代アートがナショナル（国民的、国家的）なものとのどのように関わってきたのかを問い続ける。

近年の主な発表に、「山と群衆（大観とレニ）／四つの検討（TPAM 2019 Version）」blanClass（2019年、横浜）、「開く、折りたたむ、反転する、閉じる：河原温ダイアグラム」「ラレー街 11 番地のFoujita／藤田」豊田市美術館（2016年、愛知）、「岡山芸術交流 2016」岡山県天神山文化プラザ（2016年）、「PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭 2015」京都市美術館（2015年）がある。



《山と群衆（大観とレニ）／四つの検討（TPAM 2019 Version）》



《「満洲レスリング」のためのダイアグラム（粘土）》



「眞島竜男 踊ります 2016年参議院選挙」

## リサーチリーダー・メッセージ

「MA・RU・GO・TO あいち feat. 三英傑」は、「あいち」を知り、学び、想い、絵にするプロジェクトです。ゴールは、高さ7メートル、幅21メートルの壁。「あいち」を「まるごと」壁画にして、世界に発信します。「あいち」を知りたい、学びたい、想いたい、絵にした人なら誰でもOK。絵がニガテでも大丈夫！

壁画といっても、立派だったり、仰々しかったり、モニュメントっぽかったりする必要はありません（そうでなくても構いません）。私たちが使える壁はとても大きいですが、全部を使ってもいいし、使わなくてもいい。そもそも、絵でなければダメ、というわけでもありません。たとえば、ことばの、記号の、模様の、光の、音の壁画。そんな壁画もアリでしょう。

ただし、リクエストが一つだけ。それは、「あいち」を「まるごと」絵にして欲しい！ということ。「あいち」といえば、味噌カツ、中日ドラゴンズ、トヨタ自動車？あるいは、尾張と三河、モノづくり王国、国内有数のブラジリアンタウン？ そうした、さまざまなモノやコトやヒトが、そこから飛び出してくるような、そういう「あいち」を「まるごと」壁画にしたいのです。

そういわれても、漠然としすぎていて……と感じる人も多いでしょう。ですので、このプロジェクトのガイド役として、あの「三英傑」（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）に登場してもらいたいと思います。ここでの「三英傑」は、いってみれば「あいち」という風景を発見するための窓。「三英傑」の窓越しに、「あいち」のさまざまな、そして意外な風景が見えてくるはずですよ。

たとえば、「防災 in あいち feat. 三英傑」。たとえば、「キャラクター文化 in あいち feat. 三英傑」。たとえば、「スポーツ外交 in あいち feat. 三英傑」。「あいち」の何を知り、学び、想うのか。そして、それをどんなふうに「まるごと」絵にするのか。それは、参加するみなさん次第です（私とスタッフは、そのサポートをします）！

## 【参考】

### 「あいち 2022」ラーニング・プログラムについて

#### ○参加プログラム

一般を対象とした公開プログラム

- ・アーティストによる美術史講座
- ・「芸術祭」をひも解く：近代化と万博-オリンピック-芸術祭
- ・愛知と世界を知るためのリサーチ 他

#### ○スクール・プログラム

学校関係者（児童生徒・教員等）を対象としたプログラム

#### ○ボランティア・プログラム

対話型鑑賞のファシリテーターや会場案内などのボランティア育成のためのプログラム

### 「愛知と世界を知るためのリサーチ」とは

ラーニングの参加プログラム「愛知と世界を知るためのリサーチ」は、芸術祭の開催地である愛知という土地にまつわる様々な事柄をテーマに取り上げ、我々が現在立っている場所について明らかにしながら、「世界とは何か」という謎に迫るリサーチをベースとしたプログラムです。

その一つ①『監督と学ぶ』は、「あいち 2022」の監督・片岡真実が、今回の開催会場となる地域を中心に、専門家や地域の方々をゲストに迎え、対談形式で歴史・文化・産業などを学んでいくシリーズで、動画を公開していきます。

二つ目以降は、アーティスト等がリーダーとなって、様々な視点で愛知を発見していくプロジェクトを実施します。リサーチリーダーと公募による参加者たちが、フィールドワーク、ワークショップ等、グループごとのテーマに沿って自由な形式で活動を展開し、「あいち 2022」の開催期間中にその成果を発表します。

詳しくは各プロジェクトのページをご確認ください。